

(別紙1)

この度、以下の通り公益財団法人JKAから平成25年度競輪公益資金による補助金の交付を受け、「平成26年度障害のある人が幸せに暮らせる社会を創る活動補助事業」を完了いたしました。

ここに事業完了のご報告を申し上げますとともに、公益財団法人JKAをはじめ、ご協力賜りました関係各位に謹んで感謝の意を表します。

- 1 事業名 平成26年度障害のある人が幸せに暮らせる社会を創る活動補助事業
- 2 総事業費 48,154,168円
- 3 補助金額 30,237,000円
- 4 完了日 平成27年3月31日

(別紙1)

実施内容及び成果

(1) 実施内容

①第14回全国障害者スポーツ大会（長崎県）

開催日：平成26年11月1日（土）～3日（月）

実施場所：長崎県内（県立総合運動公園陸上競技場他）

開催競技：陸上競技、水泳、卓球（サウンドテーブルテニス含む）、フライングディスク、アーチェリー、ボウリング、バスケットボール、車椅子バスケットボール、ソフトボール、グランドソフトボール、フットベースボール、バレーボール、サッカー

オープン競技：ふうせんバレーボール、視覚障害者ボウリング

②第14回全国障害者スポーツ大会予選会

1) 聴覚障害者バレーボール競技

全国を6地区に分け平成26年5月11日～6月22日の間に大会を実施し、次の通り出場チームを決定した。

	(男子)	(女子)	
北海道・東北	札幌市	—	6月22日 河西体育センター（青森県）
関東	栃木県	神奈川県	5月25日～26日 国立代々木競技場第1,2体育館（東京都）
北信越・東海	愛知県	岐阜県	6月2日 聖籠町総合体育館（新潟県）
近畿	兵庫県	兵庫県	5月26日 栗東市市民体育館（滋賀県）
中国・四国	広島市	広島市	5月18日～19日 水島緑地福田体育館（岡山県）
九州	福岡市	沖縄県	5月11日 熊本市総合体育館（熊本県）



(別紙1)

2) 視覚障害者グランドソフトボール競技

全国を8地区に分け平成26年5月12日～6月2日の間に大会を実施し、次の通り出場チームを決定した。

北海道・東北	岩手県	6月8日～9日	秋田県立盲学校（秋田県）
関東	埼玉県	6月2日	山梨県笛吹市花鳥の里ｽﾎﾟｰﾂ広場（山梨県）
北信越	富山県	5月19日	五福公園ｽﾎﾟｰﾂ広場（富山県）
東海	愛知県	5月19日	小笠山運動公園（静岡県）
近畿	大阪市	5月26日	明石市立海浜公園臨時球技場（兵庫県）
中国	広島県	5月19日	松江市海洋センターｽﾎﾟｰﾂ広場（島根県）
四国	愛媛県	5月12日	徳島県立ろう学校グラウンド（徳島県）
九州	鹿児島県	5月12日	沖縄県立武道館アリーナ棟、 漫湖公園多目的広場（沖縄県）



3) 車椅子バスケットボール競技

全国を6地区に分け平成26年5月18日～6月23日の間に大会を実施し、次の通り出場チームを決定した。

北海道・東北	仙台市	6月22日～23日	能代山本ｽﾎﾟｰﾂﾘｰｼﾞ-ﾝtﾝﾀｰ「ｱﾘｽ」(秋田県)
関東	埼玉県	5月26日	東京体育館（東京都）
北信越・東海	愛知県	6月8日～9日	いしかわ総合ｽﾎﾟｰﾂtﾝﾀｰ（石川県）
近畿	神戸市	5月26日	大阪市舞洲障がい者ｽﾎﾟｰﾂtﾝﾀｰ（大阪府）
中国・四国	高知県	5月18日～19日	ココロウエストｽﾎﾟｰﾂﾊﾞｰｸ体育館（鳥取県）
九州	長崎県	6月8日～9日	北九州市総合体育館（福岡県）



(別紙1)

4) 知的障害者バスケットボール競技

全国を6地区に分け平成26年4月13日～6月16日の間に大会を実施し、次の通り出場チームを決定した。

	(男子)	(女子)		
北海道・東北	秋田県	秋田県	6月15日～16日	宮城野体育館(宮城県)
関東	横浜市	神奈川県	5月26日	東京体育館(東京都)
北信越・東海	長野県	愛知県	5月18日～19日	下諏訪体育館(長野県)
近畿	大阪市	大阪市	6月9日	奈良文化女子短期大学アリーナ(奈良県)
中国・四国	高知県	岡山県	5月25日～26日	鹿島総合体育館(島根県)
九州	福岡県	沖縄県	4月13日～14日	大分県立総合体育館(大分県)

5) 知的障害者バレーボール競技

全国を6地区に分け平成26年5月25日～6月16日の間に大会を実施し、次の通り出場チームを決定した。

	(男子)	(女子)		
北海道・東北	宮城県	宮城県	6月16日	宮城県総合運動公園総合体育館(宮城県)
関東	埼玉県	千葉県	5月25日	国立代々木競技場第1,2体育館(東京都)
北信越・東海	愛知県	岐阜県	6月9日	山県市総合体育館(岐阜県)
近畿	兵庫県	兵庫県	※予選会未実施	
中国・四国	山口県	高知県	6月9日	高松市総合体育館(香川県)
九州	北九州市	福岡県	6月2日	福岡市民体育館(福岡県)

6) 知的障害者サッカー競技

全国を6地区に分け平成26年4月21日～6月30日の間に大会を実施し、次の通り出場チームを決定した。

北海道・東北	札幌市	6月29日～30日	岩手県フットボールセンター(岩手県)
関東	茨城県	5月25日	朝日サッカー場(東京都)
北信越・東海	岐阜県	6月9日	新潟県スポーツ公園多目的運動広場(新潟県)
近畿	兵庫県	6月2日	J-GREEN 堺人工芝フィールド(大阪府)
中国・四国	広島市	6月8日～9日	高知県立春野総合運動公園球場(高知県)
九州	沖縄県	4月21日	グローバルアリーナ(福岡県)

(別紙1)

7) 知的障害者ソフトボール競技

全国を6地区に分け平成26年5月11日～6月9日の間に大会を実施し、次の通り出場チームを決定した。

北海道・東北	宮城県	6月9日	秋田県向浜運動広場（秋田県）
関東	横浜市	5月25日	都立光が丘公園野球場（東京都）
北信越・東海	岐阜県	6月9日	口論義運動公園（愛知県）
近畿	滋賀県	6月9日	加古川両荘河川敷多目的グラウンド（兵庫県）
中国・四国	岡山県	5月11日～12日	倉田スポーツ広場（鳥取県）
九州	長崎県	5月19日	三萩野球場、三萩野少年球場（福岡県）

8) 知的障害者フットベースボール競技

全国を6地区に分け平成26年5月25日～6月9日の間に大会を実施し、次の通り出場チームを決定した。

北海道・東北	岩手県	6月9日	モエル沼公園野球場（北海道）
関東	埼玉県	5月25日	都立光が丘公園野球場（東京都）
北信越・東海	静岡県	6月2日	榛原総合運動公園ぐりんぱる（静岡県）
近畿	神戸市	6月2日	神戸市立小野浜公園球技場（兵庫県）
中国・四国	山口県	6月1日～2日	岡山ドーム（岡山県）
九州	熊本県	5月25日	熊本県身体障がい者福祉センターグラウンド (熊本県)



9) 精神障害者バレーボール競技

全国を6地区に分け平成26年4月27日～6月9日の間に大会を実施し、次の通り出場チームを決定した。

北海道・東北	青森県	6月9日	福島市国体記念体育館（福島県）
関東	横浜市	5月25日	国立代々木競技場第1・2体育館（東京都）
北信越・東海	浜松市	6月1日～2日	名古屋市障害者スポーツセンター（愛知県）
近畿	大阪府	6月1日	金岡公園体育館（大阪府）
中国・四国	岡山県	6月9日	高松市総合体育館（香川県）

(別紙1)

九州

福岡市 4月27日

鹿児島アリーナ (鹿児島県)



③日本車椅子バスケットボール選手権大会 (東京)

実施日：平成26年5月17日～18日

実施場所：東京体育館 (東京都渋谷区)

参加チーム：16チーム



④2014パラサイクリング選手権

ロード 実施日：平成26年6月27日

実施場所：岩手県・八幡平市

トラック 実施日：平成26年4月19日～20日

実施場所：福島県・泉崎

(別紙1)

⑤国際盲人マラソン大会

実施日：平成26年4月20日

実施場所：土浦市川口運動公園陸上競技場

参加者数：男子104名、女子41名、計145名



⑥インチョン2014アジアパラ競技大会日本選手団ユニフォーム経費

開催日：平成26年10月18日（土）～24日（金）

場 所：韓国・インチョン

参加者：476名（選手285名、ガイド・アシスタント17名、役員147名、本部27名）

実施競技：アーチェリー、陸上競技、バドミントン、5人制サッカー、ゴールボール、
シッティングバレーボール、水泳、車いすダンス、卓球、車いすテニス、
ウィルチェアーラグビー、自転車、車椅子バスケットボール、※テンピン
ボウリング、車いすフェンシング、ボッチャ、7人制サッカー、柔道、パワ
ーリフティング、ボート、射撃、ローンボウルズ、セーリング

(※印は日本不参加)



(2) 成 果

①第14回全国障害者スポーツ大会（長崎県）

全国から約3,200名の選手、約2,200名の役員、総勢5,400名からなる、67の選手団が参加して、開会式、閉会式及び全ての競技会を予定どおり実施することができ、大会に関わった全ての人々が「がんばらんば」のかけ声と共に、感動を分かち合い、それぞれの夢に向かって羽ばたくことができた。

3日間で、観客を合わせた参加者は延べ約100,897名、大会を観戦した人は延べ40,957名で、大会は大成功だった。

②第14回全国障害者スポーツ大会予選会

団体競技9競技12種目が、6～8ブロックに分かれ、全国障害者スポーツ大会に向けて予選会を行った。毎年全国72会場以上で行われている。今回各地区から、412チームが予選会に参加した。少しずつ予選会に参加するチーム・地域が増えている。

③日本車椅子バスケットボール選手権大会（東京）

全国から予選を勝ち抜いた16チームが参加し、熱戦が繰り広げられた。入場者は2日間で約5,000人に上った。例年3日間で行っていた大会だが、今年度は会場の都合で2日間開催となった。観客も昨年より増え、体験教室も大変好評に終わった。優勝したチームは6連覇を成し遂げた。

④2014パラサイクリング選手権

国内で開催されるパラサイクリング競技(障がい者自転車)唯一の全国大会であり、国際パラリンピック委員会公認大会として、国際大会への足がかりとなっている。

今年度は、参加選手数が少なく、同時開催の一般大会経費で事業が賄われ補助金の申請は行わなかった。

⑤国際盲人マラソン大会

本大会は27,000人以上がエントリーしている、かすみがうらマラソンと合同開催している。そのことにより、一般ランナーと、視覚障がい者ランナーが共に走ることで、スポーツを通じて障がいの理解を深めることができる。

また、盲人マラソン競技において、国内唯一の国際パラリンピック委員会の公認大会であり、国内外から競技レベルの高い選手の参加があった。

(別紙1)

⑥インチョン2014アジアパラ競技大会日本選手団ユニフォーム経費

アジア地域41ヵ国から、約4,000名の選手が参加して4年に一度、国際パラリンピック委員会(IPC)の地域委員会であるAPC(アジアパラリンピック委員会)主催のもと、韓国・インチョンで開催された。正式競技は規定されていないが、基本的な考え方としては、パラリンピック正式競技のうちアジア地域で一定の参加数が見込める競技と、フェスピック大会実施競技としての実績のある競技の中から決定されており、今回は23競技が実施された。

日本は、38個の金メダル、49個の銀メダル、56個の銅メダルを獲得した。アジア大会ということで、メディア露出は少なかったが、開閉開式の入場行進、メダリストの様子などが日本でも紹介され、日本国民の障がい者スポーツに対する理解が深まった。

4 事業実施に関して特許権、実用新案権等を申請又は取得したときはその内容
該当なし

5 業界等において今後予想される効果

①第14回全国障害者スポーツ大会(長崎県)

知的障がいがある選手は、本大会に出場することで、初めて親元を離れる場合がおおく、選手にとって大きな自立の第一歩となり、また選手にとって大きな自信につながる。

また、開催には多くのボランティアの協力が不可欠であるが、今まで全く障がい者スポーツに関わったことのない一般の方が多く参加しており、本大会のボランティア活動を通じて、より身近に障がい者スポーツを感じることができ、理解促進が進む。

②第14回全国障害者スポーツ大会予選会

本予選会は、各ブロック内持ち回りで開催している。そのため、各地域での各競技の振興を進めることが出来る。予選会を開催することにより、選手の育成だけでなく、各競技の審判員の育成、競技団体の組織力の向上が見込まれる。

また、開催地域の障がい者スポーツ協会や、指導者協議会、競技団体との連携が深まり、大会開催後も地域の障がい者スポーツの横のつながりが強くなる。

③日本車椅子バスケットボール選手権大会(東京)

車椅子バスケットボールは、一般のバスケットボールとルールもほとんど同じで、

(別紙1)

一般の人が観戦しやすい。また、選手と車いすの動きの素早さ、試合のスピード感を見る人を魅了し、障がい者スポーツの応援者を増やすことが出来る。

また、本大会が国内最高峰の大会として継続実施することにより、選手、チームの目標となり選手強化の重要な役割を果たす。

④2014パラサイクリング選手権

国内で開催されるパラサイクリング競技（障がい者自転車）の唯一の国内大会として、継続開催することにより選手強化につながる。

⑤国際盲人マラソン大会

本大会は盲人マラソンにおいて国内唯一の国際パラリンピック委員会公認大会で、国内外から競技レベルの高い選手が参加する。日本人選手はわざわざ海外に行くことなく、公認試合に参加できるので、好成績が期待できる。

また、一般のランナーが障がいのある選手と一緒に走ることにより、スポーツを通じて障がい者スポーツの理解が進む。

⑥インチョン2014アジアパラ競技大会日本選手団ユニフォーム経費

アジア大会は若手選手や、新しい選手が今後の世界選手権や、パラリンピック等の国際大会出場に向けて、海外での競技になれるために、大変重要な大会である。本大会の経験が、今後のリオ2016パラリンピック競技大会、東京2020パラリンピック競技大会でのメダル獲得につながることを期待できる。

6 本事業により作成した印刷物（報告書等）

③日本車椅子バスケットボール選手権大会（東京）

- | | |
|----------------|----------------|
| 1) ポスター（B1サイズ） | 2) ポスター（A2サイズ） |
| 3) チラシ | 4) フライヤー |
| 5) プログラム | 6) 報告書 |

なお、印刷物の配布先は別添3のとおり

7 その他報告事項

①当協会では、協賛制度をもとに協賛企業の獲得に努めるとともに、協賛企業との連携を強め、障がい者スポーツ支援者の拡大に努めている。なお、東京2020オリンピック・パ

(別紙1)

ラリンピック招致が実現したため、ジョイントマーケティング契約に基づき、協賛制度を2014年12月31日をもって終了し2020年12月31日まで凍結することになった。そこで、ジョイントマーケティング契約に抵触しない新しい協賛制度を創設し、現行協賛企業への関係維持の要請並びに新規協賛社獲得のための活動を行っている。

②ポスターやパンフレットの配布により、学校などへの施設への配布が可能になる。インターネットの宣伝だけでは伝わりにくい場所への広報活動が行える。引き続き、紙媒体での広報活動と、インターネットを使った広報活動と両面で広く障がい者スポーツの情報を発信していく。